

平成 24 年度第 5 回福生市図書館協議会会議録（要旨）

日時：平成 24 年 12 月 1 日（土）午後 2 時～午後 4 時

会場：福生市立中央図書館 2 階第 2 会議室

出席者：図書館協議会委員 9 名 図書館協議会事務局 7 名

（図書館協議会委員）

図書館協議会会長	松尾昇治
図書館協議会副会長	山根弓子
図書館協議会委員	高島絹子
図書館協議会委員	田中雄二
図書館協議会委員	萬沢明
図書館協議会委員	田中恵子
図書館協議会委員	坪井由紀子
図書館協議会委員	森由幾子
図書館協議会委員	山澤博子

（図書館協議会事務局）

教育委員会教育長	宮城眞一
図書館長	島弘
中央図書館図書館係長	柿田芳久
わかざり図書館分館長	新居陽子
わかたけ図書館分館長	櫛貞雄
中央図書館図書館係主査	小澤敬子
中央図書館図書館係主任	木村俊博

（司会）図書館木村主任

- 1 委嘱状交付  
宮城教育長より、委嘱状の交付
- 2 教育長挨拶
- 3 図書館長挨拶

4 図書館協議会委員自己紹介

5 図書館協議会事務局自己紹介

6 図書館協議会会長及び副会長選出

図書館協議会委員（9名）の話合いにより、図書館協議会会長・副会長が選出された。

図書館協議会会長 松尾昇治

図書館協議会副会長 山根弓子

7 議事

(1) 「図書館の今後のあり方」答申について検討

島図書館長より、「市立図書館の今後のあり方について」答申のための課題整理

これまでの図書館協議会にて議論された課題等を整理し、説明

**質疑**

(議長)

『平成 23 年度図書館事業報告書』の説明をお願いしたい。

→

(事務局)

『平成 23 年度図書館事業報告書』の説明

1 決算

福生市の決算総額の中で、図書館の人件費、図書購入費、その他使用料等、図書館として決算の中で重要な部分を抜粋して出している。

昨年度と比べると、全体的に減少傾向にある。

2 図書館協議会

図書館協議会委員の氏名、就任年月日、その他、各々、協議会（年 3 回）の会議内容を明示している。

3 利用者数

各館の利用者数（貸出するしないに関わらず来館された方）を統計したもの。

4 登録者数

福生市では、単年度において新規に登録された方、1 回でも貸出をされた方を数字とし

て挙げている。

#### 5 児童生徒の登録者数と登録率

子どもの数、登録者数が減ってきている。事務報告書には掲載していない。

#### 6 個人貸出冊数

1年間の図書館の個人貸出冊数で、個人が借りた図書と雑誌の総冊数と1日平均の数字を挙げている。団体は含んでいない。

#### 7 月別個人貸出冊数（図書・雑誌）

個人貸出冊数を、月毎に落とした数字。

#### 8 団体貸出冊数（調べ学習扱いの貸出含む）

ほとんどが児童関係の団体貸出。一部、点字サークルや、福生市社会福祉協議会、生活介護事業所等にも団体貸出を行っている。

#### 9 その他利用件数

（館内試聴）

中央図書館のみ。利用は少ない。

（リクエストサービス）

リクエストに占める割合の6割近くは、WEB（インターネットホームページ、館内 OPAC）からの予約となっている。

WEB 予約件数と WEB 予約率は、事務報告書には載っていない。

（レファレンス相談サービス）

中央図書館レファレンス室で受けた相談件数。

昨年度は 2,366 件の相談があった。

（コピーサービス）

原則として、図書館の資料でないとコピーできない。一部他図書館の資料もコピーできる部分もある。

館内でコピーされた数を明示してある。

（インターネット利用）

各館にインターネット用の利用者端末を、中央館 2 台、分館各 1 台ずつ置いている。

1 回の利用時間は 30 分で、次に利用される方がいなければ、延長可能。

（宅配貸出）

中央図書館で行っている。

現在、登録者数は約 10 人程度で、月 1 回、図書館の本を御自宅へ届けている。

利用は増えつつある。

（郵送貸出）

主に視覚障害者のために日本点字図書館や様々な視覚障害者用の資料を持っている図書館に確認を取り、図書館で借りて、その利用者に提供している。

（国会・都立・区市町村間協力貸借）

福生市立図書館で持っていない資料のリクエストについて、今後の利用が見込まれるもの等は購入する場合もあるが、利用が見込めない本や古い本等は、都立図書館、各区市町村図書館等で持っているところを探し、協力貸出の依頼をする。同様に福生市立図書館に貸出依頼があれば、貸出をする。

毎年、若干、借用の方が多い。

## 10 資料数

図書は、各館の前年の蔵書冊数に対して何冊購入し、何冊受入れたという数字から除籍数を引いて、平成 24 年 3 月末での冊数を出してあり、平成 23 年度末現在で、432,654 冊となっている。

視聴覚資料は、CD8,726 枚、カセットテープ 2,619 巻となっている。

障害者用録音テープ・CD について、現在は、カセットテープは買っておらず、ほとんどが CD かデージー（形態的に CD とほとんど同じような視覚障害者向けの音声録音図書）であり、デージーは、専用の再生機が必要となる。

ビデオテープも、現在、購入しておらず、DVD に切替えた。DVD は、毎年 100 本程度増えていく予定となっている。

新聞は、寄贈も含めて 51 紙、雑誌は寄贈も含めて 418 タイトルとなっている。

## 11 地域デジタル資料一覧

今年度から、緊急雇用創出事業を活用して、10 タイトルのデジタル化を行った。西多摩新聞以外については、図書館のホームページで公開している。広報ふっさは、創刊号から掲載しており、昔のを探したり、様々な調べ物等に活用いただきたい。

## 12 図書除籍明細等

どういう理由で除籍したかという除籍数の内訳である。不要破損、不明等という形で除籍されている。

中央図書館の不明図書数について、3 年前に開架室入口に BDS（ブックディテクションシステム）というゲートを設置し、以降、約 8 分の 1 位に減っている。

除籍資料の内、利用者へ提供できると思われるものをリサイクルとして出している。

## 13 分類別蔵書冊数

それぞれの分野の本がどの位あるのか、出している。

## 14 主催（共催）事業

平成 23 年度に行った様々な主催事業で、ほとんどが児童関係の事業となっている。

大人向けの事業は、武蔵野台図書館で、平成 23 年度より大人のためのおはなし会を始めた。

## 15 学校等との連携事業

図書館招待、図書館見学、職場体験、出前ブックトーク、出前おはなし会等を学校等と連携して行った。

図書館出前おはなし会「ぶっくん」は、ほとんどがボランティアのお話のグループの方

をお願いしている。

#### 16 ボランティア活動

図書館に登録していただいているボランティア団体の活動内容で、ポケットポケット、影絵サークルおかし座、おはなしのもり、その他団体、個人参加等がある。

福祉センターで主催する夏体験ボランティア活動は、中・高校生が参加し図書館での奉仕体験を毎年行っている。

YA 新聞づくりは、中学生から高校生位を対象に呼び掛け、年3回、ヤングアダルト向けの新聞を作っている。

図書館ボランティアは、広報やホームページ等を通じて、随時募集している。本の配架作業や図書館周辺の美化活動等を行っていただいている。

#### 17 西多摩地域図書館広域利用

西多摩広域利用が始まり数年が経つが、福生市以外の市町村の方がどれだけ来て、どれだけ利用していただいているかという数字と、福生市民の方がそれぞれの市に対してどれだけ使っていただいているかという数字を挙げている。

#### 18 昭島市相互利用

昭島市との関係で、西多摩地域図書館広域利用と同様の数字を挙げている。

#### 19 ぶっくんどリーム・ネットワーク福生

昨年、国立青少年教育振興機構から委託料をいただき、6月1日から1月31日の間に様々な事業を実施した。

#### 20 福生市立図書館年表

図書館が昭和45年に福祉会館内にできて、そこからの歴史を、昨年度、平成23年度まで、図書館に関するもの、住民が関わっているもの、その他に分けて載せてある。

#### 21 図書館施設

市内4館図書館施設の住所と建築年度、面積等を載せてある。

(委員)

図書館事業報告書中のデジタルに関する報告について、中央図書館館にどれ位アクセスがあり、どのような内容の情報を取ったとか、貸出の依頼がどういう傾向になっているかと分類したような資料はないか。

→

(事務局)

デジタル化については、紙ベースのものを全てスキャナーで取り、それをPDF化したもので、地域資料を中心にして昨年度初めて行った。今年度も同様に地域資料をPDF化する予定だが、PDFでしか見ることができない。

デジタル資料はホームページで公開しているが、どれだけアクセスがあったかという事は把握していない。

(委員)

ホームページのアクセス数等、解析はできないか。

→

(事務局)

ホームページのアクセス数については、現実的には取っておらず、表面上、出て来ないが、ログを取っているため、その解析は可能である。

### 意見

(委員)

これからの図書館ということで、来館利用と、ホームページを玄関にした利用とあり、これから福生の図書館がどちらの方向に向いて行くのかなということに、興味があるため、そういう数字が載っているといいが、何かあるか。

利用対象者についても、子どもの時は頻繁に利用していて、成長するに連れて利用が少なくなるが、成人利用をどうしていくのか、その辺の方針を知りたい。これからの答申する上で、利用者のターゲットをどうするかということをはっきりしておいた方がいいと思う。

(委員)

教科書以外の活字を読んだことがないという人が増えており、ブックスタートがたいへん大事だと思う。市にお願いしているが、ブックスタートは予算がいるということで、なかなか受け入れていただけない。市の木をプレゼントしていると思うが、マンション住まいの方は、植える所がなくて、たぶん取りに行かないと思うので、市の木をプレゼントするより、ブックスタートをして頂きたい。

図書館に来ていただく方を増やすために、乳幼児が泣いても周囲に迷惑を掛けない防音設備のある施設であれば、20代になっても本を読む人が増えてくると思う。乳幼児に対して図書館がどのように接点を持つていくのかということが、とても大事ではないかと思う。

おじいちゃん、おばあちゃんに向けて、お孫さんに本を読んであげようという宣伝をしてもいいのではないかと思う。

20代の人を読まないというのは、開館時間も関係してくると思うので、開館時間をちょっと伸ばすということも大事なのではないかと思う。

子どもが興味を持つような楽しく面白いホームページを作ると、良いと思う。

各小学校のパソコンと図書館のパソコンが連動して図書館の所蔵も全部分かるようになると、もっと図書館の利用が増えてくるのではないかと思う。

(委員)

学校全体の児童の6割位の方が登録しているが、登録者数が意外と少ないのかなと思った。

低学年では、親や家庭の働きかけがある家とない家では、違うのかなという印象を受けた。低学年の内から家庭や地域で、本に親しんだらどうですかとかという動きがあると高学年になっても自分から図書館に行ってみようという動きに将来繋がるのではないのかなと思った。

子ども達が図書館に足を運ぶことについて、取っ掛かり的にマンガがあり、他の本とうまくリンクしていくようになると、マンガがある程度入ってきてもいい影響があるのではないかなと思った。

主催行事のことで、おはなし会に参加させていただいたが、おはなし会が終わった後に過ごす場所もないと、ちょっと会に参加しづらい。

何か行事を開催する際に、日にちや時間帯が適切かどうかというのは、その都度考えていくということが、皆で参加していただくという上では重要かなと思う。

(委員)

武蔵野台図書館は、児童館と一緒なため、一応、午前中は乳幼児とか小さいお子様用、午後が学童の人、夜遅くが大人のおはなし会と時間帯を分けている。更に、図書館でのおはなし会ではなくて、学童のお部屋を使っているのが、そこに来ていただき、その後は自由に児童館で遊べる。もし来られれば、1日楽しめると思う。

(委員)

小学校の登録者数が少ない理由は、子どもの授業時数が長く、下校は3時過ぎになり、その後は、ふっさっ子の広場か学童保育等、お勤めの方が多いということで、子どもの拘束時間がすごく長く、子ども達の放課後の余暇の時間がほとんどない。地域の図書館に平日行くことは、無理と思う。土曜日も習い事等があり、子ども達が地域で図書館を利用する時間が減ってきている。

学校図書館の利用の仕方をもっとうまくしていくことが大事かなと思う。低学年は本が大好きで、すごく入り易い。学校図書館に専門の方が来ていただくということは、期待ができるのではないかなと思う。

## 8 その他

### ・次回図書館協議会日程決定

平成 25 年 3 月 2 日 (土) 午後 2 時～中央図書館第 2 会議室にて